

# 國學院大學學術情報リポジトリ

## 五井昌久の平和思想を支える理念：その形成と展開

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Yoshida, Naofumi メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00002459">https://doi.org/10.57529/00002459</a>

## 目次

凡例	巻頭
<b>序章 問題の所在</b>	1
1 研究目的と研究方法	1
2 先行研究について	1
3 本論文の内容構成	7
註	8
<b>第1章 白光真宏会の教祖・五井昌久の生涯と活動</b>	19
1 五井昌久の生涯と活動	19
1-1 「一愛国青年」の時代	
＝「戦前期」（～1945〈昭和20〉年頃）	19
1-2 新宗教団体への入信、「神我一体」へ	
＝「遍歴期」（1945〈昭和20〉年頃～1949〈昭和24〉年頃）	26
1-3 五井の信奉者たちが団体をつくる	
＝「草創期」（1951〈昭和26〉年頃～）	36
1-4 宗教法人化、機関誌発行	
＝「成立期」（1955〈昭和30〉年頃～）	40
1-5 「宇宙子科学」はじまる	
＝「展開期」（1962〈昭和37〉年頃～）	48
1-6 昱修庵に籠もる	
＝「闘病期」（1973〈昭和48〉年頃～1980〈昭和55〉年）	65
2 五井の生涯と活動の概要（小括）	85
註	88
<b>第2章 五井の思想形成にみられる他教団・個人等からの影響</b>	107
1 はじめに	107
2 他教団（団体）の教祖らからの思想的影響	109

2-1	世界救世教・岡田茂吉からの「影響」	110
2-2	生長の家・谷口雅春からの「影響」	116
2-3	日本心霊科学協会／心霊科学研究会（浅野和三郎・脇長生）からの「影響」	119
2-4	千鳥会（萩原真・塩谷信男ら）からの「影響」	123
2-5	その他、心霊研究グループからの「影響」	127
3	おわりに	135
	註	139

### 第3章 五井昌久の教理にみる「影響関係」＝①「消えてゆく姿」という教え

	——五井昌久による「苦難の解釈（「神義論」）」をめぐって	155
1	はじめに	155
2	マックス・ウェーバーの「神義論」による苦難の解釈	156
2-1	「二元論」	156
2-2	「予定説（予定の信仰）」	156
2-3	「業（輪廻）の教説」	157
3	新宗教教団における「苦難」の解釈	157
3-1	白光真宏会・五井昌久の解釈	157
3-2	世界救世教・岡田茂吉の解釈	163
3-3	生長の家・谷口雅春の解釈	167
4	ウェーバーの類型論と五井の「神義論」	169
4-1	「二元論」の検討	169
4-2	「予定説」の検討	169
4-3	「業の教説」の検討	171
5	おわりに	172
	註	175

### 第4章 「社会事象（社会状況、社会の出来事）」による影響

	——五井の平和運動に影響を与えたもの	179
1	はじめに	179
2	五井昌久の「平和運動」	

— 当時の時代、社会情勢から受けた「影響」の検討……………	183
2-1 昭和 20・30 年代（1945/1955-1964）の五井の発言……………	183
2-2 昭和 40 年代（1965-1974）の五井の発言……………	211
2-3 昭和 50 年代（1975-1980）の五井の発言……………	238
3 おわりに……………	254
註……………	258
<b>第 5 章 五井昌久の教理にみる「影響関係」=②「世界平和の祈り」の「ロジック」</b>	
— 五井昌久の平和運動を支える理念の分析……………	260
1 はじめに……………	261
2 五井の「祈り」とスピリチュアリズム思想との「関係」……………	262
3 五井の「祈り」と「大本系」のある思想との「関係」……………	265
4 種々の平和運動における白光真宏会の「祈りによる世界平和運動」の位置…	271
5 おわりに……………	276
註……………	279
<b>終章 要約と結論……………</b>	<b>286</b>
1 各章の要約……………	286
2 結論……………	297
註……………	302
参考文献……………	305
参照サイト……………	326
資料……………	巻末